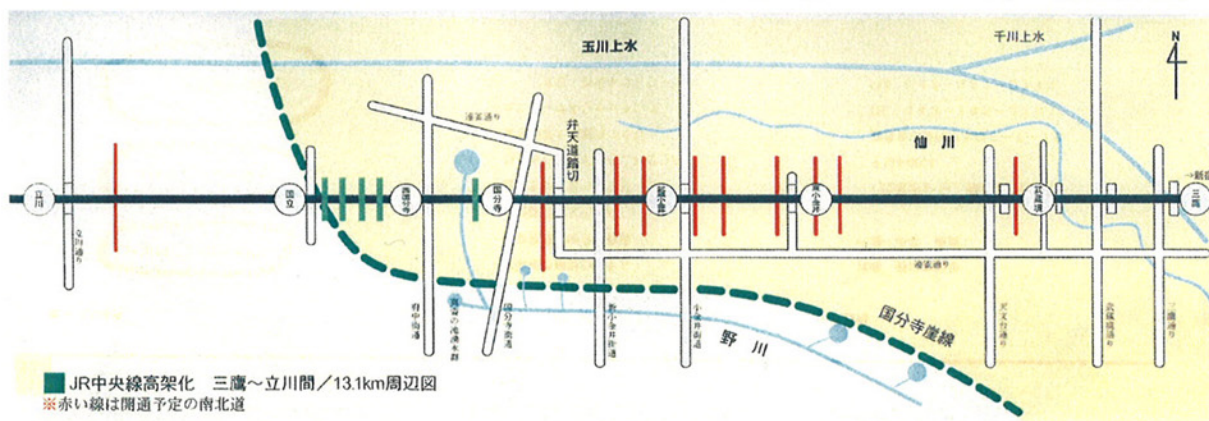


### 3. 雨水活用構想

- 南北横断道路沿道部、○駅間部、○大規模公益施設隣接部、○駅、など、地域特性に応じて、鉄道高架橋に降る雨水活用の取り組みを行うことを雨水活用構想として提案します。
- ・特定非営利活動法人グリーンネックレスでは、とうきゅう環境浄化財団の助成を受けて、鉄道高架に降る雨水水質調査を平成16年度から平成17年度にかけて進めており、水質面では十分に雨水の循環的な活用が可能であるという結果を得つつあります。（別紙参照）



#### (1) 南北横断道路沿道部

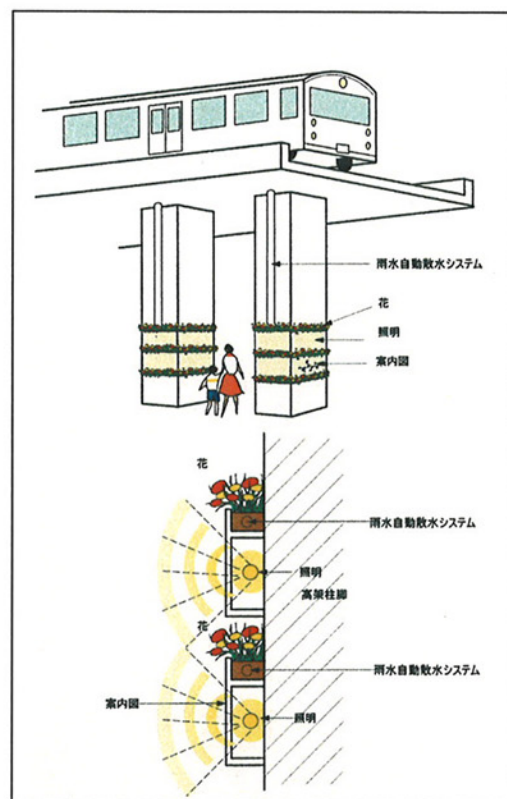
- ・鉄道高架架に伴い、中央線南北を横断する道路が新設される。これらの新たな横断道路や既存の横断道路沿道の、無骨な橋脚を雨水を循環活用し緑化したケージで囲い、照明もつけてデザインする。
- ・高架下は暗く、場合によって犯罪などの危険性も高まる。このため、道路横断部の環境を改善し、かつ、地域のシンボルとなるような空間づくりのイメージを演出する。

##### 【設置場所】

- ・駅周辺の<ポイント>となる横断道路沿道

##### 【設置費用(想定)】

橋脚4つ。一つが 200 万円 × 4箇所 = 800 万円



#### (2) 駅間部

- ・橋脚の排水パイプから1～5 tのタンクをつなぎ、そこから、底水散水（自動散水）で、高架橋沿道を緑化する。
- ・高架下と側道を連続的に活用し、沿道の緑化を進める。緑地の整備は地域の特性に応じ、植生、デザインを独自に行う。
- ・底水散水は、植栽を維持するために少量の水ですむため、橋脚1本の雨水によって100 m<sup>2</sup>以上の緑地の維持が可能となる。